※令和４年度以降入学生用

学校番号	２０３

令和５年度　保健体育科

教科	保健体育	科目	保健	単位数	１単位	年次	２年次
使用教科書	高等学校　保健体育（第一学習社）						
副教材等	保健体育ノート（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・思春期から中高年期までの健康にかかわることがらについて学ぶとともに、私たちの健康を支えている保健・医療のしくみやそれらの活用のしかたなどについて学びましょう。
・健康に関連する環境・食品の問題や、働くことと健康の関係などについて学びましょう。

２　学習の到達目標

・健康的な生活行動とはどのようなことか理解できるようになる。
・身近な健康問題に興味をもち、その解決方法について考えることができるようになる。
・健康や安全に対する社会的な取組みを知り、個人的な対応と関連づけて実践できるようになる。
・心と体を一体としてとらえ、健康・安全について総合的に理解する。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むため学習に主体的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第3章生涯を通じる健康	第1節　生涯の各段階における健康 1．思春期と健康(教 p.64～65) ２．思春期の体と健康（教 p. 66～67) 3．結婚生活と健康(教 p.68～69) 4．新しい生命の誕生(教 p.70～71 5．家族計画と不妊治療(教 p.72～73) 6．加齢と健康(教 p.76～77)	a: 思春期に起こる心の変化や性意識の男女差について，正しい知識をもつことができる。 ・生殖器の成長によって，生殖機能が備わることについて，正しい知識をもつことができる。 ・結婚に関する制度と，家庭が健康に果たす役割について，正しい知識をもつことができる ・受精の仕組み，妊娠の経過，出産の過程について男女とも正しい知識をもつことができる。 ・人工妊娠中絶による影響や生殖補助医療技術の発達による新たな問題について，正しく理解できる。 ・加齢とは何か，壮年期以降にはどのような健康課題がでてくるのかについて知り，高齢社会における取り組みについて，正しい知識をもつことができる。 b: 男女の性意識の違いについて知り，自らの行動に適切に反映することができる。 ・二次性徴におけるからだの成長について，自らのからだの変化と関連づけて考えることができる。 ・結婚の意義や家庭と健康のかかわりについて，自らの家族や将来に当てはめて考えることができる。 ・女性は，自らが経験するかもしれないこととして，男性も課題を見つけて考えることができる。 ・家族計画の重要性を認識し，自らの将来に当てはめて考えることができる。 ・加齢による心身の変化につい	・定期考査 ・課題の内容・提出状況	・定期考査 ・授業態度 ・発問評価 ・課題の内容・提出状況	・授業態度 ・発問評価 ・課題の内容・提出状況

※令和４年度以降入学生用

			て，自らの将来に当てはめて考えることができる。 c： 思春期の心の変化について知るとともに，男女の性意識の違いについても積極的に学習できる。 ・男女の生殖器官の発達について，それぞれ，積極的に調べることができる。 ・健康の保持・増進のために，家庭が担う役割について，積極的に調べることができる。 ・受精から妊娠，出産までの過程のメカニズムについて，教科書などから積極的に調べることができる。 ・家族計画を立てることの重要性を理解し，人工妊娠中絶による心身への影響などについても積極的に学習できる。 ・加齢に伴う心身の変化や壮年期以降の健康課題，高齢社会における取り組みなどについて，積極的に調べることができる。			

※令和４年度以降入学生用

２学期	第3章　生涯を通じる健　康	・第2節　労働と健康 1．労働者の健康・安全と健康問題（教 p.78～79） 2．労働災害・職業病とその予防（教 p.80～81） 3．労働者の健康づくりと「働き方改革」（教 p.82～83）	a：労働者を守るしくみを知り，労働環境の変化にともなう健康問題について，正しい知識をもつことができる。 b：職業選択の際の注意点について，自らの将来に当てはめて考えることができる。 c：労働と健康のかかわりや健康生活を送るための職場・家庭・地域の役割について，積極的に学習できる a：労働災害の実態，その原因や防止のための対策について，正しい知識をもつことができる。 ｂ：労働災害の原因を正しく理解し，将来労働災害に遭わないための適切な行動について考えることができる。 ｃ：労働災害について考え，労災防止のための対策などについて，積極的に学習できる。	・定期考査 ・課題の内容・提出状況	・定期考査 ・授業態度 ・発問評価 ・課題の内容・提出状況	・授業態度 ・発問評価 ・課題の内容・提出状況

※令和４年度以降入学生用

	第４章　健康を支える環境づくり	第1節　環境･食品と健康 1．環境汚染の広がりとその影響(教 p.88～89) 2．大気汚染の健康への影響と対策(教 p.90～91) 3．水質汚濁と土壌汚染の健康への影響と対策(教 p.92～93) 4．廃棄物の処理と健康(教 p.94～95) 5．環境衛生活動(教 p.96～97 6．食品の安全性の確保(教 p.100～101)	a:地球環境の歴史と，生物多様性保持の重要性について正しい知識をもつことができる。また，環境汚染の現状などについて，正しい知識をもつことができる。 b:地球環境問題の原因を知り，解決のために必要な行動について考えることができる。 c:地球環境の変化の歴史と，現在の問題点について，積極的に課題を見つけることができる。 a:大気汚染の定義と，健康に被害を及ぼす物質などに関する，正しい知識をもつことができる。 b:大気汚染による健康被害を防止するための対策を，積極的に考えることができる。 c:大気汚染による健康被害を防ぐためには，どのような対策が必要であるかを積極的に調べることができる。 a:自然環境の水を通した循環について知り，水や土壌の汚染が発生の経過や，防止のために行われている対策などについて，正しい知識をもつことができる。 b:水質汚濁や土壌汚染を防止するために，私たちが行うことができる身近な対策を考え，自らの行動に反映することができる。 c:水質汚濁や土壌汚染による健康被害について，その原因と対策を積極的に調べることができる。 a:有害な化学物質による健康被害の危険性や，それらの管理方法について正しい知識をもつことができる。 b:産業廃棄物問題を自らの健康にも直接かかわる問題として捉え，考えることができる。 c:産業廃棄物処理問題の構造と，その解決策について，積極的に課題を見つけ，学習することができる。 a:ゴミ処理の 4 つの方法や上下			

※令和４年度以降入学生用

			水道の仕組みなどについて，正しい知識をもつことができる。また，ゴミの減量化に向けた３Ｒ運動などの取り組みについて，正しい知識をもつことができる。 b:上下水道の設備やゴミの分別など，身近な問題として捉え，考えることができる。 c:環境衛生向上のための上下水道の整備方法やゴミ処理方法について，積極的に課題を見つけ，学習できる。 a:食品による健康被害と，その予防のために行われている対策について，正しい知識をもつことができる。 b:自らの食生活において，健康被害に遭わないために必要な行動を，適切に選択することができる。 c:食品によって起こる健康被害や，防止のための対策などについて，積極的に調べることができる。			

※令和４年度以降入学生用

３学期	第４章　健康を支える環境づくり	第2節　保健・医療制度と機関 1．保健・医療制度（教 p.102～103） 2．地域の保健機関・医療機関の活用（教 p.104～105）	a：わが国の保健行政・医療制度などについての，正しい知識をもつことができる。 b：わが国の保健・医療に関する制度について，自らの健康の保持・増進に直接かかわるものとして捉え，考えることができる。 c：わが国の保健行政や医療制度などについて，その具体的な施策などを，積極的に調べることができる。 a：保健・医療機関がそれぞれもっている役割やサービスについて，正しい知識をもつことができる。 b：保健・医療機関の利用方法について理解し，自らの生活のなかで適切に利用することができる。 c：身近にある保健・医療機関の役割や場所，医療機関の利用法などを，積極的に調べることができる。	・定期考査 ・課題の内容・提出状況	・定期考査 ・授業態度 ・発問評価 ・課題の内容・提出状況	・授業態度 ・発問評価 ・課題の内容・提出状況

※令和４年度以降入学生用

		3. 医薬品と健康(教 p.108～109) 4. さまざまな保健活動や社会的対策(教 p.110～111) 5. 健康に関する環境づくりと社会参加(教 p.112～113)	a:医薬品の効果と副作用に関して，安全に使用するための正しい知識をもつことができる。 b:医薬品を正しく使用するための情報を日常生活に当てはめて，適切に選択することができる。 c:医薬品の効果と危険性の両面について理解し，日常生活における医薬品の危険性について積極的に考えることができる。 a:わが国で行われている保健活動について，正しい知識をもつことができる。また，国際的に行われている保健活動について，正しい知識をもつことができる。 b:自らの健康の保持・増進をはかるために，ヘルスプロモーションの考えに沿って積極的に調べ，さまざまな保健対策を利用することができる。 c:わが国や世界で行われている保健活動や対策について，積極的に調べることができる。 a:健康の保持増進のための環境について，正しい知識をもつことができる。また，ヘルスプロモーションを進めるための取り組みについて，正しい知識をもつことができる。 b:健康を保持・増進するのに必要な取り組みについて調べる適切に活用することができる。 c:健康増進の取り組みについて，自らの生活に当てはめて考え，積極的に健康増進を図ろうとすることができる。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度